

## 「メセナ アワード 2006」受賞活動の紹介

### 【メセナ大賞部門】

- |         |  |
|---------|--|
| メセナ大賞   | (株)ベネッセコーポレーション/(財)直島福武美術館財団<br>香川県直島での継続的なアート活動 |
| 地域文化支援賞 | (財)岡田文化財団<br>三重県内における文化・芸術活動への助成等                |
| 収蔵作品充実賞 | (株)グリーンキャブ<br>マリー・ローランサン美術館の運営                   |
| 写真文化賞   | コニカミノルタホールディングス(株)<br>51年間におよぶ写真ギャラリーの運営         |
| 音楽総合文化賞 | (財)サントリー音楽財団<br>クラシック音楽・現代音楽の普及・振興               |
| 庭園文化賞   | 富士建設(株)/(財)中津万象園保勝会<br>大名庭園「中津万象園」の復元と維持保全       |

### 【文化庁長官賞部門】

- |        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 文化庁長官賞 | 近畿労働金庫<br>「エイブル・アート近畿 ひと・アート・まち」の開催 |
|--------|-------------------------------------|

【本件に関するお問い合わせ先】 社団法人企業メセナ協議会 広報担当:植村 / メセナ アワード担当:戸沢  
TEL: 03-3213-3397 FAX: 03-3215-6222 URL: <http://www.mecenat.or.jp>  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-8-2 第一鉄鋼ビル 1階

### 【メセナ大賞】

(株)ベネッセコーポレーション  
(財)直島福武美術館財団  
香川県直島での継続的なアート活動

#### 企業/財団プロフィール

所在地:岡山県岡山市/香川県香川郡  
業種:サービス/財団  
設立年:1955年/2004年  
資本金:136億円/正味財産:64億9,280万円  
従業員/職員数:2,393人/17人  
[www.benesse.co.jp](http://www.benesse.co.jp)  
[www.naoshima-is.co.jp](http://www.naoshima-is.co.jp)  
[www.chichu.jp](http://www.chichu.jp)

瀬戸内海に浮かぶ直島。面積8.13km<sup>2</sup>、人口3,500人余の小さな島に1989年、ベネッセがキャンプ場を設けて以来、後に「ベネッセアートサイト直島」と称されるさまざまなアート活動が展開されてきた。

92年には、ホテルと美術館の複合施設「ベネッセハウス」をオープン。「自然・建築・アートの共生」をコンセプトに、施設内だけでなく周辺の林や海岸なども含め、約70点の作品が展示されている。

98年からは、本村地区にある家屋や神社をアートとして再生する「家プロジェクト」に着手。宮島達男や内藤礼、杉本博司らを招き、地域固有の文化のなかで時間をかけてプロジェクトを進めてきた。さらに2001年には、島全体を舞台とした「スタンダード」展を開催。アートを媒介に生活の営みと島の歴史に視線を向ける試みとして、多くの住民を巻き込み、島を訪れる人々との間に交流を生み出してきた。

04年には、安藤忠雄の設計により「地中美術館」が開館。クロード・モネ、ウォルター・デ・マリア、ジェームズ・タレルの作品を恒久設置している。こうして、「ここにしかないアートの場所」が創り出されるに伴って来島者は増え続け、05年度は15万人を数えるに至った。

また、直島での活動と並行して、ヴェニス・ビエンナーレ参加アーティストに対する「ベネッセ賞」を95年に創設し、国際的なアートの舞台とも連動してきた。これからも直島では、「ベネッセ＝よく生きる」とは何かを考える場所をめざして、終わりのない活動が続いていく。

**【地域文化支援賞】**  
**(財)岡田文化財団**  
**三重県内における**  
**文化・芸術活動への助成等**

財団プロフィール  
財団所在地: 三重県三重郡  
業種: 財団  
設立年: 1979年  
正味財産: 38億円[イオン株 2,000万株]  
職員数: 11人  
www.aeon.info/bunka

岡田文化財団は 1979 年、四日市市出身の岡田卓也氏(現・イオン名誉会長相談役)が寄付したジャスコの株式を基本財産に創設された。三重県立美術館の建設に伴い設立したのだが、以来、県内の文化・芸術の振興を目指し、幅広い助成活動等を行っている。

県立美術館に対しては、82 年の開館に向けてシャガールの大作(枝)を寄贈したのをはじめ、印象派を中心とする西洋絵画の名作と日本近代美術の作品を購入・寄贈してきた。これまでの寄贈作品は 400 点を超え、美術館コレクションの中核を成している。

また同館の展覧会にも助成するほか、三重県文化振興事業団が主催するコンサートや市立博物館の活動へも助成を行うなど、県や市の文化施設の事業をバックアップしている。それとともに、個人や団体が行う文化・芸術活動を県内から募り、年間 100 件を超える案件を助成。さまざまな分野を対象に、公演から海外留学まで形態も問わず、助成金額も予算に勘案して裁量する柔軟さである。

2005 年には、岡田氏の実姉・小嶋千鶴子氏が建設したパラミタミュージアムの寄付を受け、その運営も担っている。安定した財源に支えられた活動の充実が、今後ますます期待される。

**【収蔵作品充実賞】**  
**(株)グリーンキャブ**  
**マリー・ローランサン美術館の運営**

企業プロフィール  
本社所在地: 東京都新宿区  
業種: 陸運  
設立年: 1952年  
資本金: 7,290万円  
従業員数: 3,772人  
www.greencab.co.jp/laurencin

長野の蓼科湖畔に建つアートランド・ホテル蓼科、同ホテルに併設するかたちで、1983年にマリー・ローランサン美術館は開館した。ホテル経営を引き継いだグリーンキャブ社長(当時)の高野将弘氏が、ローランサンの絵画十数点を所有していたことがきっかけである。開設後には、パリ市ロマン派美術館館長ダニエル・マルシェッソー氏はじめ専門家からなる運営委員会を組織し、画家・ローランサンの研究とコレクションの充実に努めてきた。

現在のコレクションは、油彩画、水彩画、版画、書簡から写真等の資料にいたるまで 500 点を超え、質・量ともに世界最大のものとなっている。これらの作品は同館にて常時 100 点ほど展示するほか、国内外での展覧会にも貸し出しており、公立美術館での巡回展などローランサンの企画には欠かせない存在である。

それとともに画家研究の基礎文献となる「作品総目録」を出版し、世界に散在する作品全般の把握にも貢献してきた。こうした実績による信頼も厚く、他館との共催企画など活動の幅を広げている。

ローランサン生誕 100 周年に開館して以来 23 年間、約 213 万人のファンが同館を訪れ、地元・茅野の観光の一助ともなってきた。

**【写真文化賞】**  
**コニカミノルタホールディングス(株)**  
**51年間におよぶ**  
**写真ギャラリーの運営**

企業プロフィール  
本社所在地: 東京都千代田区  
業種: 電気機器  
設立年: 1936年  
資本金: 375億 1,900万円  
従業員数: 連結合計約 33,400人  
www.konicaminolta.jp/about/plaza

東京・新宿にあるコニカミノルタプラザは、1954年、銀座で写真専門のギャラリーとしてスタートした。当初は各種写真団体に発表の場を提供していたが、93年に現在のビルに移転し、2002年の改装で 3つのスペースを設けてからは、プロ・アマを問わず、さまざまな映像イメージ表現を扱う場として多彩な展覧会を開催している。

年中無休のギャラリーで行われる展覧会の内容は、大きく 3つに分かれる。話題性ある企画展: 約 5 件、若手写真家を支援する「フォト・プレミオ」: 24 件、公募により選ばれた作品展: 約 70 件、これら趣旨の異なる展覧会が同時に開催されることで幅広い層の関心を集めており、年間の来場者数は 24 万人を上回る。

なかでも「フォト・プレミオ」は、新たな写真家を紹介する場として知られる。35 歳以下を対象に作品を募り、選ばれた 24 人の個展を 10 日間ずつ開催。もっとも優れた作品展を年度賞として表彰し、他の入選者にも奨励金を授与、さらに全員の作品を掲載したポートフォリオを発行するなど、これまで 288 名の若手写真家を輩出してきた。

一方、広く門戸を開く公募の作品展には年間 300 件以上の応募がある。今後も多くのファンに愛されるギャラリー運営が期待される。

**【音楽総合文化賞】**  
**(財)サントリー音楽財団**  
クラシック音楽・現代音楽の  
普及・振興

財団プロフィール  
財団所在地: 東京都港区  
業種: 財団  
設立年: 1969年  
正味財産: 2億8,000万円  
職員数: 3人  
www.suntory.co.jp/culture/smf

サントリー音楽財団は1969年、同社創立70周年を記念して設立された。国内におけるクラシック音楽の発展を目的に、とりわけ「日本人作曲作品の振興」を掲げて幅広い事業を展開している。

財団設立と同時に設けた「サントリー音楽賞」では、個人・団体、プロ・アマ問わず、演奏、評論、オペラ演出に至るまで、洋楽の発展に貢献した人々を顕彰してきた。90年には、故・芥川也寸志にちなんで「芥川作曲賞」を創設。公開選考会で選ばれた受賞者には新作が委嘱されて2年後の初演が約束される。さらに01年には「佐治敬三賞」が設けられ、国内で開催される意欲的な企画を表彰している。

コンサート事業としては、81年より「作曲家の個展」を東京で、86年より「室内楽の個展」を大阪で開始。そして同年のサントリーホール開館を受けて「サマーフェスティバル」をスタートさせ、同時代の音楽を積極的に取り上げてきた。関西でも、作曲家と他ジャンルの交流を試みる「対話する作曲家」など、新しい試みが始まっている。

そのほか、邦人作品を含む演奏会のチケットをプレゼントする「推薦コンサート」や、「楽譜出版助成」や作品目録「日本の作曲家の作品」の発行など、音楽を取り巻く環境の整備にも努めている。

**【庭園文化賞】**  
**富士建設(株)**  
**(財)中津万象園保勝会**  
大名庭園「中津万象園」の  
修復と維持保全

企業/財団プロフィール  
所在地: 香川県三豊市  
業種: 建設/財団  
設立年: 1952年/1998年  
資本金/正味財産: 8,200万円/5,500万円  
従業員/職員数: 72人/10人  
www.fujikensetsu.jp

元禄元年(1688年)、丸亀藩二代目藩主の京極高豊侯により築庭された「中津万象園」。長い歴史のなかで荒廃していたこの庭園を富士建設が買い取ったのは1970年のことである。以降12年の歳月を掛け、社員一丸となって庭園の復元にあたってきた。

1万5,000坪の園内に立ち並ぶ1,000本の老松を活かし、さらに5,000本の樹木を植栽。京極家先祖の地である近江の琵琶湖を模った八景池の石組みを組み直して、そこに点在する島々を橋で結んだ。また、二亭ある茶室を江戸当時の姿に修復し、樹齢630余年ともいわれる直径15mの「大傘松」を整えるなど、中洲のお茶所、池泉回遊式大名庭園の往時の面影を取り戻していった。

それとともに庭園を散策しつつ美術にも親しむ場にしようと「丸亀美術館」を併設、バルビゾン派絵画と日本画を展示する「絵画館」はじめ、「陶器館」、「ひいな館」が園内に配されて82年の一般公開を迎えた。以来、「中津万象園」は丸亀市の観光スポットとして紹介され、多くの観光客が訪れる場となった。

さらに安定した運営を目指して(財)中津万象園保勝会を設立。社業を活かした取り組みで、地域文化の発展に大きく貢献してきた。

**【文化庁長官賞】**  
**近畿労働金庫**  
「エイブル・アート近畿  
ひと・アート・まち」の開催

団体プロフィール  
本部所在地: 大阪府大阪市  
業種: 金融機関  
設立年: 1998年  
資本金: 159億9,500万円  
従業員数: 1,241人  
www.rokin.or.jp

「エイブル・アート近畿 ひと・アート・まち」は、ろうきん運動50周年の記念事業として、2000年にスタートした。以来毎年、近畿2府4県を巡回しながら、05年度までに6回開催してきた。

障がいのある人たちの芸術活動を通じて、人と人・社会とのつながりを再考しようとする「エイブル・アート」運動に共鳴した近畿労金が、(財)たんぼぼの家と協働して、毎回、開催地の多くの協力者とともに実行委員会を組織。各地のさまざまな施設や商店街など「まち」を舞台に、作品展示やワークショップなどの試みが展開されている。

06年の開催地となった滋賀では、障がい者とアーティストによる作品制作やガムランの演奏団体とのパフォーマンスを共同で行うほか、エイブル・アート作品を自宅や店舗に展示する「プライベート美術館」、日常の風景を写真に留める「世間遺産」など、約10日の期間ながら多彩な催しが行われた。運営には営業店の職員がスタッフとして携わったほか、市民ボランティアも約80名が参加した。

これまでの開催で、エイブル・アートへの認知が高まるとともに、まちを舞台とした多角的な芸術活動として開催各地から継続の要望も強くある。これを受けて06年度には大阪で新たなかたちで開催、さらに市民参加を促す取り組みを模索している。